

現在会員登録数1,092人さま。ご愛読ありがとうございます。第33号をお届けします。前号で5月20日発行予定と誤ってお知らせしましたが、月曜日は休業日ですので、21日とさせていただきます。ご了承下さい。次号は6月20日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》ＹＯ！この本読んだ？ Yasuko's & Okiko's Talk

《2》読書活動ボランティアのためのワンポイント 33

《3》サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 連続ワークショップ「いろいろ絵本づくりにちょうせん！」参加者募集

日程：平成25年 各回とも午後1時～4時

(1) 6月29日(土) ことばあそび絵本をつくろう！

(2) 7月27日(土) 写真絵本をつくろう！

(3) 8月24日(土) とびだす絵本をつくろう！

(4) 9月28日(土) てがみ絵本をつくろう！

(5) 10月19日(土) コラージュ絵本をつくろう！

(6) 11月23日(土・祝) わたし、ぼくだけの絵本をつくろう！

会場：大阪府立中央図書館 2階会議室（東大阪市荒本）

コーディネーター：川内五十子

土居 安子（当財団 主任専門員）

アドバイザー：中新井純子（絵本作家）

対象：小学生（基本的に全回参加できる人）

参加費：無料

募集人数：15名 応募者多数の場合は抽選

申込締切：6月14日（金）

主催：大阪国際児童文学振興財団

お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『ゴジラ誕生物語』 山口理/著 文研出版 2013年4月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：映画『ゴジラ』の第一作の制作過程を追うルポルタージュ。特撮の円谷英二監督のこと、ゴジラの着ぐるみを着た二人の役者、町のミニチュアのセット、音響など、当時の特撮の苦労と工夫についてのこと、そして、この映画において、ゴジラが水爆実験から着想した怪獣であり、メッセージは「戦争・核兵器の恐怖」であることが述べられている。

Y：この欄で初めてのノンフィクションです。これまでも、ノンフィクションを取り上げたいと思っていましたが、小学生ぐらいが読める読み応えのあるノンフィクションがなかなか見つからず、探し続けていました。そんな中で、『ゴジラ誕生物語』に出会いました。

O：まずは、タイトルでおもしろそうと思いました。

Y：ゴジラ、特撮というテーマは、ふだん本をあまり読まない層の子どもにも響きそうです。

O：実際に読んでみると、特撮の方法やそれに関わる人たちについて詳しい情報がありました。

Y：ゴジラを4倍のハイスピードで撮って、重量感のある歩き方に見えるようにしたり、着ぐるみが重くてセットの議事堂に突っ込んだり、日本に1台しかないコントラファゴットという楽器を使ってゴジラの重量感を表現したりしたことが書かれていて、かなりマニアックですが、個人的には興味深かったです。

O：この作品のテーマとして、映画に関わった大勢の人たちが一丸となって映画を作り上げたことを伝えたいということがあったと思います。一方で、いろいろな人を登場させたため、円谷英二は「天才」的な部分が強調されてしまい、人間的な面がやや物足りないように思いました。また、最初は軽視されていた特撮が、日本人特有の器用さも手伝って、優れた映画になったという点も伝えたいメッセージとして受け取りました。

Y：そして、何より注目したのは、「反戦、反核」のメッセージを持っていたということです。ゴジラは水爆の犠牲者です。太古の眠りから目を覚ました怪獣ゴジラは巨大で、しっぽを動かすだけで東京の町が破壊されます。

O：敗戦から9年、第五福竜丸の被爆事件から8か月後に封切られた社会的背景もゴジラ誕生には欠かせなかったことが伝わってきました。「ゴジラの悲劇性」は今日のテーマですね。多数の当時の現場写真や映画の場面などが入っていて、映画第一作「ゴジラ」を見たい気持ちにさせてくれました。

その6 絵本の読み方（8）『どろんこハリー』を読む：ハリー、家に帰る

どろ遊びを楽しんだハリーは、第7見開きの2画面で、家路につきます。左側のページでは、左奥に車の修理工場があり、右には煙突掃除らしきおじさんが梯子に上っていて、ハリーはおじさんを見ている後ろ姿が描かれています。その背中からは、まだまだ真っ黒になって遊びたいという気持ちと、「いえでをしたとおもわれたらたいへん」と躊躇する気持ちが読み取れます。

左側には、黄色いぶちの小さな犬が梯子に上っているおじさんに興味を持って、「もっといっぱいあそびたかった」というハリーの気持ちを強調しているようです。そこで、ここの読み方は、「あそびたい」という心残りがいっぴいな気持ちが伝わるように読む必要があります。「いえでをしたとおもわれたらたいへんです」と書かれていても、そのことを大事に思うというよりは、家に帰ることを自分に納得させる理由だということ伝えるように読む必要があります。

右のページでは、レストランの窓を覗きながら、歩くハリーが描かれていますが、ハリーの頭は、歩く方向と逆の方向を向いており、心残りが読み取れます。そして、レストランの中では家族が座って食事をしているので、「くたびれた」「おなかがすいた」「家族の元に帰りたい」という気持ちがハリーの中に起こることが想像できます。レストランには「いぬおことわり」と書かれており、おなかがすいたといってもレストランに入ることはできず、自分の家へ戻らなければならないという状況がわかります。

レストランの中の一家族とウェイターがハリーに気づいており、ハリーと目が合っています。どちらも親しみのない表情をしているので、ハリーが「よりみちをしないで はしって うちへ かえりました」という状況が理解できます。

第8見開きでは、ハリーは不安そうに裏口から離れた茂みの中から家を見ており、裏口付近にいる子ども二人とお父さんも不信を抱きながらハリーを見えています。最初の文は、ハリーの状況を言葉でも説明しており、次の「ハリーは、いったい どこへ いったのかしら？」は、ハリーを目の前にしてのせりふです。ですので、ハリーがどきっとする、不安な気持ちにさせるように読む必要があります。

*次号は「その6 絵本の読み方（9）『どろんこハリー』を読む：ハリー、芸当をする」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。（Y）

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇 13 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

● 独立行政法人 日本芸術文化振興会 文化デジタルライブラリー

<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>

「文化デジタルライブラリー」は、歌舞伎や能、狂言のほか、文楽や人形浄瑠璃など、日本の優れた伝統芸能を身近に触れることができるよう構想されたサイトです。

国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂・国立文楽劇場の過去の公演記録を、公演日・演目・役名・出演者名から調べたり、収集された伝統芸能に関する資料をネット上でみることができます。童謡や紙芝居をはじめ、児童文学・児童文化の諸ジャンルには、こうした伝統芸能を引き継いで成立したものが少なからずあり、大変関係が深いといえます。

例えば、現在も歌舞伎や人形浄瑠璃の人気演目の一つとして知られる「伽羅先代萩」（めいぼくせんだいはぎ）は、仙台藩・伊達家のお家騒動を題材とした演目です。最大の山場となるのが「御殿の場」で、我が子を犠牲にして主君を守るという悲哀のストーリーです。

この物語が初めて演じられたとされるのは 1713 年（江戸中期）。以降繰り返し演じられ、人気演目となりました。歌舞伎などで演じられたことで全国に伝播、これを類歌とする童謡や手まり歌などが各地に散見されます。大正期に広く愛読された、美人画の竹久夢二や少年詩の有本芳水らの童謡集にも取り入れられています。

サイトでは、「伽羅先代萩」の演目情報が 29 件、資料情報が 163 件あります。人気役者のプロマイドや舞台を描く錦絵、またおもちゃ絵で紙芝居の源流の一つとも言われる立版古（たてばんこ、組上げ絵）などをみることができます。当時庶民が熱狂した芸術。ぜひご覧ください。（J）

※次号は、一次資料データベース篇〈その 14〉の予定です。

《4》 行って来ました！

大阪歴史博物館で開催されている「特別展 幽霊・妖怪画大全集」に行ってきました。この展覧会では日本画家の吉川観方が収集し、現在は福岡市博物館に所蔵されている幽霊画や妖怪画が前後期合わせて 160 点展示されています。展示は大きく「プロローグ 笑う骸骨」「第 1 章 幽霊画の世界」「第 2 章 妖怪画の世界」「大阪会場特設コーナー」に分けられています。

はじめに出てきたのが、円山応挙が描いたとされる、波立つ水面に座禅を組む骸骨の絵です。骸骨の目玉のない目や半開きの口は、見に来た私たちを笑っているように見えます。次の長沢盧雪「九相図」は、屋外に放置された遺体が朽ち、動物に食い荒らされ、骨になっていく様子が描かれています。これ

から見るものの怖さに期待感が高まります。

幽霊画は、肉筆画と、歌舞伎の浮世絵版画に分けて展示されています。歌舞伎の幽霊は、お芝居の中に出てくるものとわかっているので、安心して見られますが、だんぜん怖いのは肉筆の幽霊画です。ほとんどが女の幽霊で、まだ生きてような美人な幽霊もいれば、赤ん坊を抱いた幽霊、本当に恨めしそうな幽霊もあります。どれも掛け軸の中から今にも抜け出してきそうです。なかでも、生首を手にもち、口から血を流した上目づかいの幽霊には背筋がぞーっとなりました。

うって変わって妖怪画は、色もきれいで明るい雰囲気です。物が妖怪になった「付喪神」や、鬼や天狗、人間や動物の妖怪は、ひとりひとり？が個性的で滑稽で、解説を読みながらじっくり見て楽しめました。昔の人たちの想像力豊かな幽霊や妖怪を見ながら、今の子どもの本にも、こんな多様な物の怪が登場したらいいなと思いました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 東西えりすぐり 街頭紙芝居上演会

演 者：東／梅田佳声、永田為春、湯川博士、森下昌毅

西／近藤博昭、古橋理絵、大塚珠代、古山千賀子（三邑会）

日 時：平成 25 年 6 月 2 日（日）午後 1 時 30 分～4 時、5 時 30 分～8 時

場 所：お江戸日本橋亭（東京都中央区日本橋本町）

参加費：有料 申込み：必要

主 催：財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所

● 児童文学講演会「鳥越信と『少年文学宣言』」

講 師：神宮輝夫（青山学院大学名誉教授）

日 時：平成 25 年 6 月 9 日（日）午後 1 時 30 分～4 時 30 分

場 所：エル・おおさか 5 階視聴覚室（大阪市中央区北浜）

参加費：有料 申込み：必要

主 催：大阪国際児童文学館を育てる会

共 催：大阪国際児童文学振興財団、大阪府子ども文庫連絡会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ？」で紹介しました『ゴジラ誕生物語』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで 件名「メルマガNO.33プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

